OMC news
大阪ムービーサークル
https://www.omc-video.com
会　長 〒560-0085　豊中市上新田4-16-1-33 合原　一夫 06-6833-9227
事務局　〒562-0022　箕面市粟生間谷東6-8-11　進藤　信男 0727-28-5836
編集室　〒586-0039　河内長野市楠ケ丘11-18　中川　良三 0721-65-0348
HomePage担当　〒559-0033 大阪市住之江区南港中5-6-22-703 坪井 仁志 06-6613-2836

令和３年 10 月（2021 年）No.670

第６１回 OMC 映像フェスティバル
満席の大盛況で肩の荷をおろす

10 月３日（日曜日）、大阪市立中央会館で行われた第 61 回 OMC 映像フェスティバルは、緊急事態宣言解除後で感染者数が激減したことと晴天にも恵まれたせいか、開会前より、続々と観客の皆様が来場されて受付も大忙しの状態でした。受付ではプログラムの下に印刷された住所・氏名・連絡先電話番号の記載の有無を確認する人、体温を測る係、手指消毒を確認する人などコロナ対策を実施しましたが、皆さん、とても協力的でした。場内では３密対策として椅子並べに工夫を凝らし、非常口の確認、休憩時間は外気を取り入れる扉の開放などに気を配ったりしました。

会場側から指定された席は、瞬く間に埋まり、会員諸氏は皆席を譲るなどして何とか来場者の立ち見だけは避けられました。

当初、果たしてどれだけの入場者があるものかと懸念しましたが、全席満席の盛況に大感激、お世話頂いた OMC 会員諸氏に感謝します。

会長　合原一夫

■　**祝電を頂いた方**

1.　東京アマチュア映像連盟　　会長　鹿島隆雄様
2.　映像神奈川　　会長　大隅楠夫様、副会長　金子喜代子様
3.　寝屋川市映像協会　　会長　竹田幸男様、及び会員一同様
4.　京都市・株式会社吉岡映像　　吉岡博行様

■　**ご祝儀を頂いた方；**　　野田邦雄様（壱万円）

以上、誠にありがとうございました。

１０月例会のお知らせ

■　**第４土曜日２３日 18 時より**、大阪市立難波学習センターにて開催

人と人との直のふれあい、楽しいひと時を過ごしましょう。

緊急事態宣言解除に想う

会長　合原一夫

新型コロナウイルス感染症には、ほとほと困った。いろんな行事が中止となり人との触れ合いや会話の機会がぐっと少なくなってしまった。これは人間の生き方の本質にかかわる大問題である。

一時、例会会場も閉鎖になり、毎月楽しみにしていた例会も開催できない月もあった。ようやくコロナ禍対策の上、例会も出来るようになったが、地下街の夜の閉店が早まり、二次会の喫茶店、居酒屋での楽しみの機会が失われてしまっていた。

そこへ、ようやく緊急事態宣言の解除が 10 月 1 日発せられた。これで夜の喫茶店や居酒屋が利用できるのかどうかはまだ確かなことは判らないが、気分的には安心感がある。

最も公開映写会では、入場者数の制限、３密対策など当分は続けることが要求されるであろう。

このところ感染者数が激減しているがこれは若者、中年層へのワクチン接種が進んでいることと、皆マスク着用など３密対策に気を遣うのが日常化していることが要因であろう。第６波の患者数増加も取り沙汰されるのでそういう気配りは欠かせないだろう。

来年３月には「日本を縦断する映像発表会」が大阪市立中央図書館で開催予定であるが、その頃は、コロナ禍の心配から抜けたい気持ちだが、２～３年は続くという一部の専門家の声もあって３密対策やマスク着用は当分日常化するであろう。

こうした中にあってクラブ活動の活性化には、ここ２年中止した撮影会は実施したいものである。

イベント後の懇親会も復活させたい。来年の公開映写会には、会員諸氏の作品が少しでも良いと評価されるように、作品の個別研究会も只今考えているところである。

コロナ禍が完全に去ったわけではないが、必要以上に怖がらずに、OMC 映像活動を楽しんでまいりましょう。

全国コン入選おめでとう

岡本さん、東京アマチュア映像祭入選

「おんな港・室津」　　10 分

９月例会レポート

９月通常例会は 25 日 18 時より、難波市民学習センターにて開催。そろそろ秋めいてきて夜は気温が下がるので半袖から長袖へと衣替えの会員さん 12 名が集まって例会開催。途中、岡本氏より OMC フェスティバルの役割分担の話等があった。会長からは大阪アマチュア映像祭 11 月 14 日（日）に決まったことと、最近の芳名簿の推移などの話があった。今月は岡本氏の司会で始まった。

■　**運営担当**：司会　岡本、書記・YouTube 関係　髙瀬、映写　進藤、メモリー記録　中川、
受付・照明　宮崎の各氏

■　**出席者**　：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、関、髙瀬、中川、野田、宮崎、山本の 12 氏

上映作品（書記は髙瀬氏）

１．紀州ヘラ竿の里

～伝統を受け継ぐ巧みの技～

岡本至弘　　14 分 40 秒

（作者コメント）

平成 17 年、OMC 撮影会企画作品ですが、数回にわたり撮り足しに行って制作したものです。

（書記コメント）

撮影会後も１年かけ数回、現地を訪れ、ヘラ竿作りの工程を丁寧に描かれた力作で、2005 年の和歌山県アマチュア映像コンクールで和歌山県知事賞を受賞されている。BGM がほぼ全編流れており、ナレーションはともかく、職人の方が話されている時の BGM は職人の言葉をやや聞き取りにくくしているように思います。

２．近江の巨木に野神が宿る

紙本　勝　　12 分 20 秒

（作者コメント）

近江で訪れたのは花ノ木、イゴキ、欅、アガシの４種類ですが、いずれもその樹種としては大きく、特徴もあって見応えもあり、選んで訪ねた甲斐がありました。

（書記コメント）

大阪、京都と続いた紙本さんの巨木巡り、今回は滋賀県湖北まで足を延ばされている。すでに 60 カ所の巨木を訪ね撮影されているとか、作品はもとより、その精力的な制作姿勢に感服するほかありません。

３．お房観音

進藤信男　　9 分 40 秒

（作者コメント）

奈良県橿原市にある、庶民の寺「お房観音」。書き方は、ひら仮名だったり漢字交じりだったりもするようです。コロナ禍のため緊急事態宣言が繰り返され、最近は飲食店、とりわけ飲酒を伴う行動と大勢が集まり飛沫をふりまく行動の規制、および、いかにして生命と生活を維持していくかに絞られているように思われる。これが社会の規範、評価の柱のようになっている。ただ身近なことだけに目を奪われている間に社会の大きな流れ、大切なことを見過ごしているのではないかとの不安を覚えるようになってきた。こんな時期に訪れてみた「お房観音」は春秋のバラ開花を思わせる雰囲気を残しているものの、風鈴一色、あまり飾り気のないシンプルで庶民の願い事を聞いてくれ、みんなが元気になる事を願っているお寺だった。

（書記コメント）

お房観音の由来から寺の歴史など、それほど広くないが、寺の隅々まで丁寧に描写され、風に揺れる風鈴の音は心地良く響き渡ります。ラストのテロップは作者の思いが語られているが、それまでの映像とのつながりはどうかという声が聞かれました。

４．中部ポルトガルを訪ねて

山本正夢　　12 分

（作者コメント）

ポルトガル中部の都市４カ所を巡る紀行ビデオです。

（書記コメント）

朝焼けから始まり、漁業の町や 12～13 世紀の面影を残す町、14～16 世紀の歴史的な建造物など、いつものさりげないカメラワークで軽快に描かれている。

５．あべの・天王寺イルミナージュ

中川良三　　5 分 44 秒

（作者コメント）

2014 年に開業した日本一高いビル「あべのハルカス」開業前のカウントダウンと天王寺公園で行われた日本イルミネーション協会主催のイルミネーションの様子を撮影しています。最初の動画は 15 分ほどありましたが、再編集して６分弱にしました。

（書記コメント）

ドリームズ・カム・トゥルーの歌に乗せて、イルミネーションが　幻想的であったり、軽快で楽しい様子を上手く表現されている。それぞれのエリアの転換がブルーの背景に文字が入るワンパターンなので、工夫が欲しい。

６．魅惑の島・バリ

合原一夫　　14 分 55 秒

（作者コメント）

インドネシアのバリ島は一度は行ってみたいと思っていた島だ。玄光社主催でバリ島ビデオ撮影ツアーに誘われて妻と共に参加した。ヒンズー教の人が多く、寺院があちこちにあり、現地ガイドの案内で訪れた。また観光地らしく独特の音楽や踊りは十分私たちを堪能させてくれた。平成 7 年制作。

（書記コメント）

あこがれであったバリ島を訪ねられ、その期待に違わぬ島の様子を丁寧な映像とナレーションで表現されている。ご夫婦でバリ島の風景や現地の人々のもてなしを満喫し、楽しまれている様子が伝わる作品と言えます。

７．ホイアンの人びと

関　　剛　　9 分 20 秒

（作者コメント）

南北に細長いベトナムのほぼ中央に位置する世界遺産の古都。江戸時代から日本と貿易などの関係があり、日本人が建設したと言われる日本橋も実在する。この作品は 10 数年前に撮った映像で人も少ない静かな街だったが、ネットで調べると、いまは観光客でたいそう賑わっているらしい。

（書記コメント）

タイトルどおりベトナムの古い町に暮らす人々の姿を秀逸なカメラワークで描かれている。特に小さな赤ん坊から老人まで顔の表情を時にはアップを交え、活写されているのが印象に残る作品。

８．郡上八幡の夏

髙瀬辰雄　　12 分 30 秒

（作者コメント）

岐阜県の郡上八幡は清らかな水が流れる自然豊かな町です。清い水の流れとともに生活する人々や宗祇水の歴史などを踏まえ、郡上踊りを加え、まとめてみました。30 年近く前の玄光社・小型映画友の会京都支部（友の会解散後は京都映像サークルに変更、継承されたが、2015 年に解散）での撮影会作品です。

９．鬼走り

江村一郎　　7 分 10 秒

（作者コメント）

奈良県五條市で行われる 500 年の伝統を誇る伝統行事です。古来の伝統なのか厳冬の夜間 9 時から始まる火の祭典「鬼走り」、昼間は「昼の鬼走り」として子供たちも参加して行われます。今年はコロナ禍のなか地元と関係者で実施されたそうです。

（書記コメント）

祭典の準備をする人や見物の子供などのカットをテンポ良くつながれ、わくわく感を抱かせる。火伏の行は迫力のあるシーンの連続で見応えがあります。ただ正面のシーンを 1 カ所、静止画を入れられているが、

色調が違うためか少し違和感があるように思います

９月第二例会レポート

９月第２例会は、第３木曜 16 日大阪市立難波市民学習センターにて開催。昼間の例会は２ヶ月ぶり。昼間の例会しか出席できない会員さんにとっては、待ち遠しかった例会だったに違いない。やはり直接出会って会話するのは楽しい。今月は会長の司会で進行した。

■　**運営担当：**司会　合原、書記　紙本、メモリー　江村、映写　進藤、照明・受付　宮崎の各氏

■　**出席者**　：植村、江村、岡本、紙本、関、上総、合原、進藤、高瀬、宮崎、山本の以上 11 氏

上映作品（書記は紙本氏）

１．御　火　焚

高瀬辰雄　　１４分２０秒

＜作者コメント＞

御火焚は社前で火を焚く神事。京都では１１月を中心に多くの寺や神社で行なわれる。

代表的な伏見稲荷大社の火焚祭、近所の武信稲荷神社の御火焚ではみかんを焼き、参拝者にふるまわれる。節分会の御火焚、祇園祭の御火焚、そして壮大なスケールの阿含宗の星まつりと５ケ所の御火焚をまとめ編集してみました。

＜書記コメント＞

江戸時代からの行事で、秋の実りに感謝、厄除けを祈願するもので、行事の場所によって内容が少しずつ違う様です。５ケ所も精力的に撮影されていて、拝見するだけでご利益頂ける様な有難い作品でした。

２．ヨルダンの城めぐり

山本正夢　　９分０秒

＜作者コメント＞

ヨルダンはアラブ諸国では比較的政情が安定しているが歴史的には、ローマ帝国、イスラム帝国、十字軍、モンゴル帝国、オスマン帝国と支配者が代わりました。

＜書記コメント＞

観光国ヨルダンの城をいくつかめぐっておられますが、石作りは規模も大きく少々の攻撃ではビクともしない堅牢さを誇っていて落城することなど無い様に見えますが、食料攻めには勝てない様です。でも世界遺産に登録されるだけあってまさに城塞、それをまた見事に作品にされていました。

３．三春駒の里

合原一夫　　７分１８秒

＜作者コメント＞

福島県田村郡三春町は、ダルマ・干支などの民芸品の産地として、全国に名を知られた町である。地元のおじいちゃん・おばあちゃんが手つくりで作っている様子を、現地へ訪ねてつぶさに見学、撮影する機会があった。東北大震災の際は、この辺りが一時避難所となったとか。今でも手つくりで来年の干支などの人形つくりに励んでいることだろうか思い出しても懐かしい三春町であった。

＜書記コメント＞

子供の玩具「子育木馬」が作られて、これで子供が遊ぶと健やかに成長するとかではじめられた三春駒。高柴デコ屋敷で、天狗面・だるま・張り子の虎・干支人形など民芸品を手作りする様子をつぶさに撮影したとある通りで三春駒とはどんなものか詳細に知ることのできる作品でした。

４．源氏物語・藤壺の帖

関　　剛　　７分１０秒

＜作者コメント＞

紫縁起に始まって４作目の改定編。源氏物語は千年以上も前に紫式部が恋愛、栄光と没落、権力闘争など、平安時代の貴族社会を描いた、現代で言えば長編小説。各国語に翻訳されて世界中に広まっているが、日本人で読んでる人が意外と少ない。私の前３作も例会や映像祭に出したが難しくてよく判らないなどの評があったのでナレーションを入れて作り直してみた。この作品、これから先も未完成のままになる予定。

＜書記コメント＞

石山寺の建物から始まる源氏物語、美しさも求められるのでしょうが独特の手法で描かれており私では到底真似のできない作品です。苦労をされて４回も改作されたその姿勢は見習うべきで、ナレーションで判りやすくなっていると思われました。

5.京都市電

江村一郎　　７分４０秒

＜作者コメント＞

先月の「蹴上インクライン」の続編とも言える作品です。琵琶湖疎水での発電を利用した日本初の電気鉄道がスタートし、後の市電となる。今回、眠っていた８ミリフイルムを活用することができた。それに加えて以前２０１９年６月に行った岐阜県の明治村に動態保存されている京都市電の素材をプラスしてまとめました。

＜書記コメント＞

京都市電が廃止されて４０年余り、当時の市電の走行の姿と６６年間ありがとうのお別れの日の雄姿が８ミリフイルムでよくぞ撮られたものと驚きで、懐かしの市電の歴史がよく判るという、鉄ちゃんの真骨頂の秀作でした。

６．福知山寸描

紙本　勝　　８分５０秒

＜作者コメント＞

明智光秀が築いた福知山城は市のシンボルで景観の美しさをめで，御霊神社で昔をしのび明智藪を見て河原で一息、水害と水防を語り継ぐ治水記念館では荷物を引き上げる装置などを見学、治水の大切さを学びました。

７．ピアノ調律師

上総秀隆　　１０分１８秒

＜作者コメント＞

この道五十年のピアノ調律師。何度も来てもらっているが、今回はいろいろとお話しをきくことができた。

＜書記コメント＞

ピアノが美しい音を奏でるには、定期的に点検が欠かせないそうです。ご自宅のピアノを調律師の方が調律・整調・整音される作業を初めから終わりまで撮影されており、その内容がよく判りました。

＜会長コメント＞　調律が終わったあと、娘さんかお孫さんが引き始めをするシーンを入れて、それをラスト音楽として締めたら、更に良い作品に仕上がっていた。